

ずっと、都島

Zutto Miyakojima

特別号 | vol.8

Aug.2021

みやこ

じま

特集

住民の傍らに寄り添う若き在宅医の思い
忌部周「いんべ診療所院長」

ソーシャルビジネスに 駆ける男たち

- ▶ 大庭 瞬 [移動スーパー「とくし丸」]
- ▶ 信川 裕資 [ツチ病院理学療法士]

ソーシャルビジネスの考え方 / 広石 拓司
コラム「2枚目の名刺」 / 岩淵 亜希子

Charitable Activities フードドライブ

ご家庭で余っている食品を持ち寄っていただき、
生活のサポートを必要とする方や、こども食堂など
の団体へ無償で配布する活動です。

お問い合わせ
都島区社会福祉協議会
☎06-6929-9500

「ご寄付いただきたい食品」

- 新品で未開封のもの
- 賞味期限が1か月以上あるもの
- 生鮮食品以外で常温保存が可能なもの
- 包装や外装が破損していないもの

缶詰・そうめん等の乾麺、乾物
カップラーメンなどのインスタント食品
カレーなどのレトルト食品
バックご飯・調味料など

【取材にご協力いただいた方の連絡先】

person 01
忌部 周さん
医療法人 福愛会 いんべ診療所
〒534-0001 都島区毛馬町1-8-4
☎06-6922-2526

person 02
大庭 瞬さん
移動スーパー「とくし丸」販売パートナー
☎080-8329-2983

person 03
信川 裕資さん
医療法人京昭会 ツチ病院
〒534-0014 都島区都島北通1-22-6
☎06-6922-1236

編集後記



佐々木 さやか
都島区社会福祉協議会 生活支援コーディネーター。施設の介護員、地域包括支援センターの相談員(社会福祉士)を経て現職。動物占いは、心から自由を愛する「ベガサス」。今行きたい場所は、五島列島の海。

神戸の海が見える高台に祖父母が眠るお墓があります。そこは、訪れると迷いが吹っ切れるふしぎな場所です。将来、人間関係、家族、仕事、健康…重い荷を背負って汗をかきながら高台をのぼり切り、祖父母に話を聞いてもらいます。幼い頃、祖父の膝の上でおしゃべりに夢中になった時のように。先日、その場所を久しぶりに訪れました。祖父母に話を聞いてもらい、海をぼんやりと眺めていると、背中の荷物が軽くなり、新しくすき間ができていくことに気づきました。そして次に進みたい道がはっきり見えてきて、踏み出す勇気が湧いてきました。後ろから見守ってくれる存在があるから、また前を向けるのだと思います。道は平坦ではないと思いますが、きっと明るいと感じています。時にはつまづき、時にはスキップしながら前へ進みたいと思います。もやがかかったように先の見えない日々をお過ごしの方へ。こころの荷物をおろせる場所が思い浮かんだら、久しぶりに足を運んでみてはどうでしょうか?今でも思いもよらなかった道が見えるかもしれません。(さ³)

社会福祉法人 大阪市都島区社会福祉協議会
〒534-0021 大阪市都島区都島本通3-12-31 ふれあいセンター都島
開館時間 平日9:00~19:00 土曜9:00~17:30
休館日 日曜・祝日・年末年始
TEL 06-6929-9500 FAX 06-6929-9504

都島区社協 LINE公式アカウント
お友達登録をすると、都島区社協の講座やイベントの情報が届きます

都島区社会福祉協議会
Google Map

困難さの中に眠っている 「できること」を見つけ出そう

株式会社エンパブリック代表取締役
ソーシャルプロジェクト・プロデューサー
広石 拓司

組むもので、民間は寄付やボランティアで関わるものとされてきました。「困っている人を助けてあげる」と「ビジネスでお金を得る」とは合わないように思う人も多いでしょう。「困っている人を助けて、お金儲け」って、悪徳商売のようですよ。では、なぜソーシャルビジネスは社会課題の解決とビジネスの両立ができるのでしょうか?それはソーシャルビジネスでは、困っている人を「助けてあげる」のではなく、その人の「眠っている可能性を發揮できる場をつくる」という考え方をしているからです。

例えば、知的障がい者は仕事をやる能力が低いと考えられ、就職が難しく、給料も低くても仕方ないと言われてきました。しかし、「スウェーカリー」では、知的障がい者が主力となつてパンを焼き、販売し、カフェも運営し、通常のペーカリーのように収益を得て、お給料も支払われています。このペーカリーでは、知的障がい者は複数のことを同時に処理したりするのは苦手だが、一つの作業に集中するのは得意であることに注目しました。そして、従来のペーカリーのチーム作業を障がい者の個性を活かすように組み直すことにより、通常のペーカリーと同じ品質と利益を生み出せる事業としたのです。

広石 拓司さん
Hiroishi Takuji

株式会社エンパブリック代表取締役
ソーシャルプロジェクト・プロデューサー

大阪府玉造出身。シグマタック勤務、NPO法人ETIC.での社会起業家育成に従事した後、2008年にエンパブリックを創業。「思いのある誰もが動き出し、新しい仕事を生み出せる社会へ」をビジョンに、地域の多様な立場・分野の人が協力して新しい活動を生み出すための場づくりを進めている。慶應義塾大学総合政策学部等の非常勤講師も務める。

「ソーシャルビジネスの考え方」

SDGS人材からソーシャル・プロジェクトの担い手へ
持続可能な世界に向けて好循環を生み出す人のあり方・学び方・働き方
【共著】佐藤真久(東京都市大学教授)×広石拓司(エンパブリック代表)

専門家主導から住民主体へ
〜場づくりの実践から学ぶ「地域包括ケア×地域づくり」〜
【著者】広石拓司(エンパブリック代表)

{ 2枚目の名刺 }

「地域のオンライン活用は、『うれしい』を原動力に」

昨年来のコロナ禍で、全国のあらゆる地域活動が大打撃を受けました。そんな中、全国各地でオンラインの認知症カフェ・家族交流会が始まっていることを知り、いくつか参加してみたのです。そこで出会ったのは、繋がり続ける場と方法を求めて全国から集まる多くの人たちでした。「それって若い人の話でしょ、シニアには無理」と思いましたか？そんなことはありません。諸外国に目を向けると、80代のシニアだってデジタル機器を使いこなしています。日本のシニアだけができないはずがありません。その点で、都島区社協が開催して大人気となった『シニア向けzoom講習会』には、いぶん勇気ももらいました。オンラインで人と繋がることに関心を持っているシニアが大勢いて、初心者の状態から始めてしっかり使いこなしているという実例だからです。

こうしてこの1年で「地域のオンライン力」を底上げしていく必要性和希望を感じるようになりました。特に、地域活動の中核を担っており、また心身を支える人との繋がりが欠かせないシニアにこそ、オンラインを使いこなすべき理由があります。そして絶対にできる！必要なのは、きっかけや練習の場、ちょっとしたことを開ける相手です。ではそれらを用意するので、一度やってみませんか？地域の福祉委員やボランティアの方にお声がけし、快諾を得ました。まずは先生役の大学生とマンツーマンで基本操作を学ぶ『zoomの準備会』を2度開催。そこでの「できた!」という自信を

胸に、大学と地域のみなさんをつなぐ『zoomの接続会』で実践です。画面のこちら側に学生と私、向こう側には地域のみなさん。接続した瞬間、向こう側からワツと盛り上がる雰囲気伝わってきました。「あー映った!」「あ、あの人、私の先生や!」と、みなさん笑顔です。「ああそうか」とハッとしました。

事前に期待したのは、今回参加したみなさんが「思うたより、難しくないわ」と周りに伝え、実際に活用することで、地域のシニアへとオンラインの利用が広がることでした。心理的ハードルを越えるきっかけをつくることはたしかに大事です。けれどその先に「顔を見たい、見られてうれしい!」という相手がいなければ、地域での活用にはつながらないのではないのでしょうか。コロナ禍のすきを縫って、地域にオンラインでも会いたい人を増やしていくことこそが、地域のオンライン力向上の一番大事な土台づくりなのだと思います。

PROFILE



岩淵 亜希子さん

いわぶち あきこ 造手門学院大学地域創造学部准教授。1976年北海道釧路市生まれ。大阪大学大学院人間科学研究科を単位取得退学。大阪大学コミュニケーションデザイン・センターなどを経て、現職。専門分野は社会学。お気に入りの生き物は、秋田犬、ハンピロコウ、シマエナガ。

社協からのお知らせ

夕涼みラジオ体操

令和3年7月19日(月)~8月31日(火)

※土・日・祝は休み

時間 / 16:45~ 会場 / 都島区社会福祉協議会屋内外

この夏、都島区社会福祉協議会では「夕涼みラジオ体操」を開催しています。

広島弁、土佐弁、鹿児島弁、岩手弁、津軽弁などなど、

懐かしい方言の掛け声のラジオ体操です。

ふるさとも感じられるひと時となるかもしれません。

どなたでもご参加いただけますので、お気軽にお越しください。

移動スーパーが地域の買い物弱者を救う

都島区を走る、移動スーパー『とくし丸』。生鮮食品や日用品など約1200点を載せた軽トラックで、買い物に行くのが困難な住民の家を回る。元ケアマネジャー(※)の大庭瞬さんが、「買い物弱者」と言われる住民のために2018年に開業した。当時、大阪市内にはとくし丸は1台も走っていなかった。「都心に買い物弱者はいない」と思われていたからだ。しかし実際には、高齢になり買い物に行けなくなっている住民が増えていることが地域課題となっていた。大庭さんは、都島区社会福祉協議会の生活支援コーディネーター(※4)から、この課題解決に一緒に取り組まないかと声をかけられた。

業を決意するまでに時間はかかりませんでした。ケアマネジャーをしていて、既存の介護保険や宅配サービスでは不十分であることがわかっていました。新しいことへのチャレンジを直感的におもしろいと思いましたが、ケアマネジャーと比べ収入に差があるため、起業前は周囲から「大丈夫なのか」と心配する声もあった。しかし今では経営も安定して地域になくはならない存在になっている。買い物中の会話は多岐に渡り、介護保険のことや病気のこと、家族のことなど、ケアマネジャーの視点で接客することも珍しくない。無駄な買い物しないようにそっと声をかける時もある。「ビジネスとしてのおもしろさもあり、福祉の延長にあるこの仕事は自分に合っていると思います」。

これまでのキャリアを活かし、新たなビジネスで高齢者や地域住民を支えながら、買い物弱者0を目指して今日も都島のまちを駆け抜ける。



Person 02

Profession: 移動スーパー『とくし丸』販売パートナー
Name: 大庭 瞬さん (35歳) / おおほ しゅん
Profile: デイサービス勤務を経て、ケアマネジャー事業所管理者を経験。2018年に移動スーパー『とくし丸』を開業。座右の銘は「なんとかなる。なんとかする」。特技は、介護保険の解説と裏話。

地域医療の矛盾に挑む

まっすぐに見つめる「住民の幸せ」。住民の傍らに寄り添う若き在宅医の思い。



Person 01

Profession: 医療法人福愛会いんべ診療所院長 都島区医師会理事
Name: 忌部 周さん (40歳) / いんべ しゅう
Profile: 大阪市都島区出身、在住。在宅医療、認知症の人が暮らしやすい地域づくりに力を入れている。好きな言葉は「ネガティブケイバリティ」。趣味は釣り、スキー、スノーボード。



大学院で気付いた「地域医療の矛盾」

都島区毛馬町に、約70年続く歴史ある診療所がある。いんべ診療所だ。祖父、父が築いた地域住民からの信頼を受け継ぎつつ、地域医療の矛盾を憂えていきたい」と語るのは3代目院長の忌部周さん。大学医学部を卒業後、大病院の勤務医として働いていたが、多忙を極めており、患者一人一人と向き合えてはなかった。時間をかけず効率よく診察することが求められる環境だったため、当時は忌部さん自身も違和感はなかったという。転機となったのは、実家のいんべ診療所を継ぎ、大学院で再び学んでいる時だった。医師や看護師、MSW(※1)福祉関係者などの仲間と、どうすれば今の医療を良くできるのかを研究した。医療従事者側が力を持ち、患者側が発言しにくい構図が当たり前になっていた現状に気づいた忌部さんは、現在、その課題解決のためにさまざまな取り組みを行っている。

見えてきた「垣根」を取り払いたい

一つ目は日々の診察である。訪問診療(※2)で患者の家を訪問する際に白衣は着ない。白衣を見ると緊張して言いたいことが言えない患者がいるからだ。「少しでも患者さんとの距離を縮めて他愛のない雑談でもよいので患者さんの言葉を聞きたいです。管理するのではなく、患者さんがどう生きていきたいかを一緒に考えられる医師でありたいと思っています」と語る。

二つ目は、住民活動を支えること。4年前から「ちよと楽しい在宅医療勉強会」を続けているグループ「毛馬コーポウゆうくらぶ」(淀川地域)

リハビリテーションのその先のフェーズへ

ツチ病院の理学療法士(※5)である信川裕資さんは、週に25人程度の訪問リハビリテーション(以下、リハビリ)を担当している。訪問リハビリでは、理学療法士などが利用者の自宅や施設を訪問し、リハビリを提供する。

「身体機能が低下しても自宅で暮らした」という高齢者の思いを支えるなかで、信川さんは「退院して自宅に帰った人が気軽に通える場が地域に少ない」と感じていた。例えば住民同士で「がんばっているね」と声をかけ合える体操グループなどである。

そんな課題を解決しようと、信川さんは地域住民が主催するコーラスに参加し、住民と交流しながら「何を求めているのか」

Person 03

Profession: 医療法人 京町会ツチ病院 理学療法士 都島区理学療法士会理事
Name: 信川 裕資さん (42歳) / のぶかわ ひろよし
Profile: 神戸市垂水区出身。先祖代々漁師の家系で生まれ育つ。大阪リハビリテーション専門学校卒業後、現職。趣味: 広告チェック、日光浴 / 好きな言葉: 「筋肉は裏切らない」



を学んでいる。そして、都島区地域包括支援センターの介護予防に関する会議でケアマネジャーへの助言を続けている。「地域医療に力を入れている辻院長から”人の話をよく聴く。”と、わからないことは正直にわからないと言おう。”を教わり、実行しています。助言者という立場で出席していますが、知らないことを教わる場面も多いので、他の職種の方々の考えをよく聴き、そのうえで理学療法士の立場から助言するように心がけています。人の話をしっかりと聴くと、次に自分が何をすべきかが必ず見えてきます。地域に目を向けている仲間たちと手を取り合って、気持ち豊かな場を作りたいです」。

※3 介護支援専門員。介護を必要とする人が介護保険サービスを利用できるように、計画書の作成やサービス事業者との調整を行う専門職。
※4 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる仕組みづくりを支援する専門職。
※5 病気のケガなどで体力や筋力が低下した人に対し、基本的動作能力(歩く、立ち上がるなど)の回復を図るリハビリテーションを行う専門職。

※1 医療ソーシャルワーカー(Medical Social Worker)の略。医療機関などで、患者や家族の経済的・心理的・社会的な悩みをサポートする専門職。
※2 病院に通院できない患者に対して、医師が計画的、定期的に訪問診療する。